



Shobara Silver

庄原シルバー

会報
新春号
2021.1



— 主な内容 —

新年の挨拶 2
丑年の抱負 4
互助会だより 6
安全委員会 7
事務局だより 8
庄原の昔話 9

会員スローガン

明るく 楽しく 元気よく
今日も一日社会貢献

— 公益社団法人 庄原市シルバー人材センター —

新年あけましておめでとうございます

本年も庄原市シルバー人材センターをよろしく願いいたします。

人生百年時代における

シルバー人材センターの決意



庄原市シルバー人材センター

理事長 田村 富夫

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

人生百年時代という言葉がすっかり定着し、今や高齢世代が働くことは社会貢献になりました。少子高齢化・人口減少が進み、労働力が不足することからも、誰もが生涯現役で活躍できる社会の実現が求められているのだとも言えます。

以前、温泉浴場の壁に目にした「五十、六十鼻たれ小僧、七十、八十は働き盛り、九十になつて迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」というフレーズがずっと心に残っていました。これが、明治に生きた、新一万円札の顔となる渋沢栄一の言葉だと後に教わりましたが、かつて私たちの願望と憧れであった長寿というものが、新たな意味を持って現実になっています。

先だって、「何かがあつてもいけないが、何もないのも寂しいものだ」と、大変に実感のこもつたお話を耳にしました。定年退職して、これでやっと自由になれたと思うのは1年だけで、後は便々とした日常が続くのが相場です。長寿社会なればこそ、退職を新しい生き方へのチャンスと捉えて、次のステージに雄飛を決する！ 私たちはそんな

な新老人です。思えば、人生という旅路に定年はなく、いのちを生きることには老後がないのは当然のことなのです。

高齢者が、ピンピンと元気に生き、コロリと「お迎え」がくることを希求するのは人情というものです。亡くなった母が、「嫁いらず観音のお札を何枚も所持していたことを思い出します。平均寿命と健康寿命の隔たりを思えば、「ピンピン・コロリと、自分の足で棺おけまで歩いていく」とは、まんざら笑い話とばかりとはいかなくなりました。私たちの百歳を生きる覚悟のほどが試されるようになったと言えます。

人生の成功者とは、「最後までボケず、寝たきりにならずに、三日寝込んでコロリと逝く人」のことだそうです。長生きが「長呪」ではなく、健康長寿であるために、私たちの先輩たちは決め手として「生きがい就業」という言葉を編み出しました。仕事をすることは生きていくことを実感できる一番の手段だと気づき、働くことの中に、喜びや達成感や生きがいを感じ、健康と長寿の幸せをつくっていくという考え方です。高齢者に仕事があることは、今日も行くとこころがある「きょういく」の最高の居場所ですし、今日も用事がある「きょういう」の最上の出番だとも言えます。

正直、会員の皆様方の、なんともお若く元気であることか!! まことに、庄原シルバー人材センターのスローガン、「明るく 楽しく 元気よく 今日も一日社会貢献」の通り、受けるのではなく社会を支える側の人材である皆様です。「私たちの自覚と心構え」にあるように、「私たちは、働くことによる社会参加に喜びと生きがいを求めます」。それは、庄原シルバー三つのよろこび「健康であるよろこび、就業できるよろこび、感謝されるよろこび」を知る生き方です。

庄原市シルバー人材センターの確かで大きな存在意義をしっかりと見定めて、新春の決意とし、会員の皆様のさらなる雄飛を祈念して、ご挨拶とします。



庄原市長

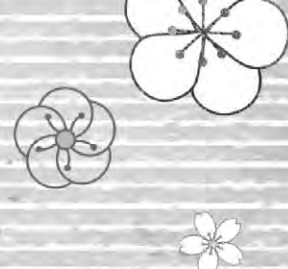
木山 耕三

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに令和三年の新春をお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

旧年中は、本市福祉行政をはじめ、市政全般に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の全国的



な感染拡大に始まり、4月には緊急事態宣言が発令される中、本市では「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、市民の皆様
の生命と健康を守るため、感染防止策の市民啓発活動をはじめ、医
療機関や福祉施設へのマスクの配布、各種イベントの延期や中止
公共施設の利用制限等の対策を講じてまいりました。

会員の皆様をはじめ、市民の皆様には、大変なご不便をお掛けす
る中、本市の感染防止対策に多大なるご理解とご協力をいただき
ましたことに対し、改めて深く感謝を申し上げます。

現在も更なる感染拡大が続ぎ、未だ収束の見えない状況ではご
ざいますが、感染防止対策に万全を尽くす所存でございますので、
引き続きご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

そうした中にあつても、庄原市シルバー人材センターにおかれ
ましては、働く意欲のある高齢者が活躍できる就労の場を確保し、



庄原市議会議長

宇江田 豊彦

新年あけましておめでとございます。

会員の皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し
上げます。

また、平素より市議会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜
り厚くお礼を申し上げます。

庄原市シルバー人材センターにおかれましては、今日まで一貫
して高齢者に生きがいと就業機会を提供され、地域社会の発展と
地域福祉の向上にご尽力いただくとともに、大きな成果を上げて
おられることに対し、改めて敬意を表する次第であります。

既に高齢化率が43%に達し、全国平均より40年以上早いペース
で超高齢化社会を迎えている本市においては、高齢者が豊富な経
験と知識を地域社会に還元し、地域活動への参画や就労で活躍し

高齢者の社会参加や生きがいづくりに、多大なご貢献をいただい
ております。

少子高齢化の進行により、担い手や人材不足が懸念される本市
では、多様なニーズに対応できる経験豊富な会員の皆様は、活力あ
る地域社会の原動力であると存じます。

市といたしましても、高齢者にいきいきと過ごしていただける
ような地域社会の実現に向け、引き続き取り組んでまいりますの
で、本年もより一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い
いを申し上げます。

結びに、庄原市シルバー人材センターの益々のご発展と、皆様方
にとりまして幸多き一年となりますよう心からお祈りを申し上げ、
新年のごあいさつとさせていただきます。

続けることができる「生涯現役社会」を実現することは、緊急かつ
最優先の課題であり、高齢者の多様なニーズの受け皿として、貴セ
ンターの担う役割は、ますます重要なものとなっております。

今後とも、会員増加の取り組みをさらに強めていただくととも
に、高齢者の雇用対策及び就労支援の拠点として、健康長寿のまちづ
くりの一翼を担っていただきますよう、期待するものであります。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、4月には全国に
緊急事態宣言が発出されました。

宣言解除後も第2波、第3波と感染拡大は収まらず、まさに未知
なる不安との闘いの年でありました。

コロナ禍は、国民生活に大きな影響を及ぼしており、一刻も早い
収束を願うところでございます。

本市議会でも、様々な活動が制限を受けている状況ですが、引き
続き、市民の負託に応えられる議会としてしっかりと議論を重ね
ながら、高齢者福祉の充実に一層の努力を傾注してまいります
でございます。

新たな年を迎え、庄原市シルバー人材センターのますますのご
発展と、会員の皆様のご多幸、ご活躍を心よりご祈念申し上げ、新
年のごあいさつといたします。



「感謝」

熊原利明(庄原)

シルバー人材センターに入会させていただき15年になります。1937年誕生の雄丑です。

サラリーマン生活を終えて故郷に帰省したところ友人の勧めでシルバー人材センターに入会し、今日まで仕事に同好会活動に参加できたのも、会員のみなさんのお力添えの賜物と思っております。

会員として15年間、宿日直をはじめ様々な業務に携わることができたのは先輩会員、同友のみなさんのご指導のおかげと思えます。同好会

旅行などに参加し、懇親を深める機会を得て楽しく元氣も戴きました。またなによりも私事ですが60年余りの広島カープファンで「カープばかり」と呼ばれても誇りに思い、勝てば官軍負ければ賊軍、「勝盃」・「敗盃」を酌み交わし、多くのシルバー会員の皆さんに辛抱強く付き合っていたいただき感謝です。

これからも年を重ねていきますが元氣で感謝の念をもってシルバー人材センターの楽しい諸行事に参加させていただきます。



「仲間との親睦を大切に」

甲下悦子(総領)

シルバー人材センターに入会して10年が過ぎました。

総領地区は少数会員ですが、会員の親睦第一に考えて仲良く活動しております。年3回程度の地区班会議を開き安全作業の進め方から健康生活までいろいろな意見が出ます。なんといいっても高齢者は無理が禁物です。年一回は保健師の健康指導も受けております。会議が盛り上がりつつと野菜の育て方から総領町の絶滅危惧種の節分草を守るにはどうするかなど、話は益々はずみずみ。

昨年はコロナ禍により三密を避けるため地区班会議は中止しました。今年に至りましてもコロナ禍の終息の望みはなく、コロナと闘いながらの生活が始まりそうです。

今年は丑のごとくゆつくりとコロナ撲滅に力を合わせて進みたいものです。以前のように軽食を囲んで地区班会議が開かれる日を急がず待ちましょう。

誠に簡単ではありませんが、丑年に当たっての感謝を申し述べました。

丑年の抱負



「何事も前向きに」

盛原 勝(高野)

今私は、家で米づくりをしています。何よりも大変なのは畦畔の草刈です。年3〜4回は刈りますが、田んぼのまわりがきれいになった時は気持ちの良いものです。出来秋には親戚や、知人が「おいしかったよ」と言ってくれるのでそれを励みとして頑張っています。

平成28年5月にシルバー人材センターに入会し、現在の仕事は庁舎管理業務です。宿日直、死亡届や婚姻届の受理などが主なものです。4人の方と業務に支障のないよう協

力し助け合っています。又、支所事務局の方や、職員の皆様にも親切丁寧に接していただけているので、楽しく仕事ができて嬉しく思っています。今年で72才になりますが、健康づくりとぼけ予防のため、月一回ゴルフを仲間と共に楽しんでいきます。

これからも、会員の皆さんの元氣をもらって仕事に興味に何事も「やればできる」を信じて頑張ろうと思っております。



「七回目の丑年を迎えて」

中村 八十志(庄原)

令和2年は新型コロナウイルスに始まり感染が最高レベルに達しており日々拡大しておりました。

妻と二人三脚で結婚60年を迎え気が付けば7回目の丑年となりました。

思えばサラリーマン生活20年、自営業21年、学生寮の管理人を10年と務めシルバー人材センターへ入会し、市役所の夜間管理業務を3年余りと4回の転職となり今日に至っております。

私の思い出としては8歳の頃、原爆の被害者達が庄原駅で降り、バス

で小学校の仮校舎に担ぎ込まれる姿が強烈な印象として残っています。また、終戦の日、天皇陛下がラジオで放送されたのが、とぎれとぎれの声で聞き取りにくく周囲の人がラジオを叩いている姿が思い出されます。

戦後の食糧難の飢餓を耐えて今日ある日々を、今は体力維持の為にグラウンドゴルフに行き足腰に力をつけようとしています。

83年の人生を振り返り、現在の平和な世の中に感謝し、健康な日々を過ごし残りの人生を頑張って生きたいと思えます。



「古希からのチャレンジ」

伊藤 壽和 (西城)

シルバー人材センターに入会したのは、令和2年4月で古希の歳です。何かにチャレンジしたいの思いが動機です。シルバー人材センターでの仕事は、支所の宿日直です。ミスが許されない業務で、職員や先輩方に教えていただき働いています。

普段は少しの自家米や野菜作りをやっていますが畦草刈には閉口しています。草刈は足腰が鍛えられるとあきらめて頑張っています。

この歳になると、身にしみて「感謝」「健康」「支援」の大切さを感じます。歳をとったら人の悪口を言わないようにひたすら感謝する。これは生きる知恵だと思えます。「恥をかくのはうまいが、字と文章を書くのはへた」と自認しています。

これからも与えられた業務をこなせるように精進しますのでご指導をよろしく願います。



「人生を振り返って」

岸 泰孝 (比和)

気が付いてみれば、早いもので71才になっていました。最近では少し無理すると身体が痛くなり、整体治療院に行く始末です。無理がきかなくなつた今、これからの残り少ない人生のようように生きていこうかと思つた時、金銭欲は薄らぎ身体が健康であることの幸せをより強く感じ、日々健康で楽しく生きる方向を望む様になりました。

約2年前よりシルバー人材センターの紹介により市役所比和支所の宿直を月に7〜8日行つております。体力的に軽い業務なのでこれからの私に合った仕事だと感謝し

ています。職員さんに「こんにちは」「お疲れです」と声を掛けられ、張り合いがわいてくる事を感じシルバー人材センターには感謝です。これから出来れば続けさせていただきたいと思つています。

私は多趣味ですが、今はホームフルーツ(ブドウ・イチジク)等の栽培に精を出しています。来年は、JAの元氣市等に出荷してみようかと思つております。自分の作った商品も消費者に認められる喜びを感じます。これからも健康に気を付け頑張りたいと思います。



「人との出会い、シルバーとの出会い」

井上 久恵 (東城)

シルバー人材センター東城支所長さんに出会い、「シルバー」に入れ、入会して何度も誘われ、それほど言われるのならと思うようになりました。それからシルバー人材センターに入会し早いもので6年が過ぎました。

入会当時の私は、急に主人を亡くして毎日辛い日々でした。でも今は違います。口も元気、それに強くなりました。これもシルバーに入会したからかもしれません。

毎日人と出会い、健全な身体で健全な心、感謝の気持ちがいっぱい増えました。いつも感謝の気持ちを持つていけば自然に人は集まると思っています。

仕事の依頼が入り、一緒に作業する会員は皆頼りになります。時には「手を動かせよ、話はなんぼしてもいいから」と声をかけ、休憩にはお茶、コーヒーなど飲みながら、なごやかな一時を過ごしています。それは痛いところも忘れる楽しい時間です。人との会話の大事さを一層感じています。

仕事が終わると依頼者の方から「ありがとう、きれいにして貰って気持ちがいい、また来てね」と言われ、こんな声をかけてもらえることが一番嬉しいと感じています。仕事で疲れていても「また皆で来ようね」と言つて帰ります。

又、仕事をする上で困ったことも増えてきますが、そんな時は一人で悩まずに支所長さんや皆さんに相談し解決しています。昨年はコロナで親睦会、温泉旅行が中止となり残念ですが、コロナが終息し会員の皆と温泉旅行に行ける日を楽しみにしています。

これからも迷惑をかけることと思いますが、支所長さんを初め会員の皆さんの力を借りてシルバー人材センターの活動に力を入れていきたいと思えます。コロナに負けない様、会員の皆さん、今以上に体に気をつけて頑張ります。



Shobara Silver 2021

祝 米寿・喜寿

本所会議室で記念品等贈呈

例年1月に開催しておりました長寿会員祝賀会及び新年互礼会につきましては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止といたしました。その代わり、米寿・喜寿の代表6名の会員さんに出席いただき、センター会議室にて規模を縮小した記念品贈呈式を行いました。



米寿

(会員氏名)

稲田 延枝 (庄原)
 松村 君子 (庄原)
 山脇 広四郎 (西城)
 森木 萬利 (高野)



喜寿

(会員氏名)

伊藤 富江 (庄原)	田中 光枝 (庄原)	山脇 曙美 (西城)
片山 茂實 (庄原)	毘沙丸 カズ子 (庄原)	仲田 邦和 (東城)
加筑 政恵 (庄原)	藤谷 都多子 (庄原)	宮田 利明 (東城)
後藤 クマエ (庄原)	堀内 澄子 (庄原)	竹中 春義 (口和)
坂田 知子 (庄原)	宮脇 寿美子 (庄原)	深井 春美 (口和)
須澤 軍治 (庄原)	森久 成信 (庄原)	竹林 敏彦 (高野)
竹下 知枝 (庄原)	森元 淳三 (庄原)	田中 敏記 (高野)
竹元 弘明 (庄原)	坂本 美壽枝 (西城)	横山 良美 (比和)

ジョイフルでしめ飾り販売



しめ飾り同好会では、市民への広報活動の一環として昨年末12月25・26日の両日、ジョイフルながえ1F風除室において丹精込めた作品の展示・販売を行い、また恒例の本所特設テントも29日まで開設しました。来場者からは「やっぱりしめ縄は藁(ワラ)のもんだ」と好評でした。



安全委員会

事故発生状況

令和2年度の庄原市シルバー人材センターの事故発生状況は下記のとおりです。
4件の傷害事故と4件の物損事故が発生しています。傷害事故のうち2件は熱中症です。



種別	職種	症状	概要
傷害	草刈	通院	草刈作業中、草の中にあつた金属片に刈払機の刃が接触し、チップソーのチップが飛散し左膝付近に刺さつた。
傷害	草刈	通院	草刈作業中、気分が悪くなり受診したら、熱中症と診断された。
傷害	草刈	通院 入院	草刈作業後、自宅に戻り休んでいたが気分が悪くなり、受診したら熱中症と診断された。
傷害	草刈	通院	法面の草刈作業中、足元の土が崩れ2m滑落した。
賠償	伐採	手すり変形	ロープをかけて伐採していたが、人力では支えきれずに墓所の階段手すり(ステンレス製)に接触させて変形させた。
賠償	草刈	ガラス破損	草刈作業中、小石を飛散させて近くに停めてあつた自動車の窓ガラスを破損させた。
賠償	伐採	石灯籠崩落	ロープをかけ庭木を伐採していたが、倒す方向を誤り近くの灯籠に接触させて崩落させた。
賠償	剪定	瓦破損	剪定作業中、枝を切り落としたりしたところ塀の瓦の上に落ち破損させた。

10月17日(土)に「全国一斉社会奉仕活動」を実施しました。

シルバー人材センターでは、日頃からセンターを支援していただいている地域住民や市行政への感謝と、センター活動の普及啓発を図ることを目的とし、ボランティア活動(公共的施設での剪定・草払い・草取り・清掃作業など)を毎年実施しています。

当日は小雨が降る中、7地域で138名の会員に参加いただきました。

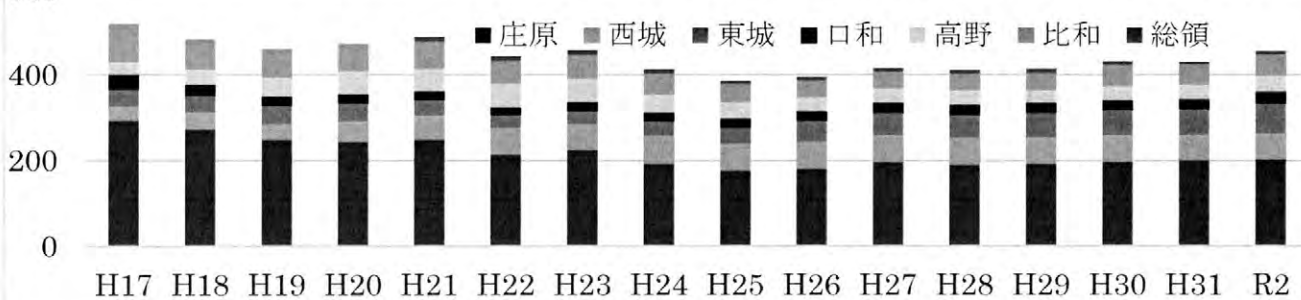
地区名	活動場所	参加会員数
庄原	上野池周辺	40人
西城	西城夢公園	24人
東城	庄原市役所東城支所敷地及び支所前街路	33人
口和	口和総合運動公園	10人
高野	高野地域福祉センター敷地等	14人
比和	いざなみ工房敷地	12人
総領	亀谷自治会館敷地	5人



会員の推移(年度別)

(単位:人)

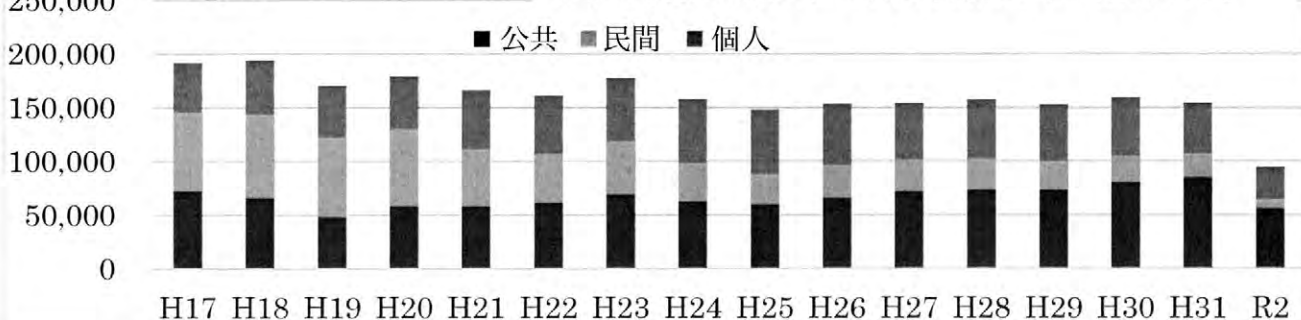
会員数は、平成25年度まで減少していましたが、近年は微増の傾向にあります。令和2年度は9月末の会員数(455名)です。



受託事業実績の推移(年度別)

(単位:千円)

受託事業は、平成25年度以降概ね1億5千万円前後で、令和2年度上半期(4月~9月)の実績は9千5百万円です。



左原の昔話

⑧

蛇になった照日姫

— 今串池

「久代記」(一般本)に、照日姫にかかわる伝承が収録されている。

西城と比和の町境の今櫛山の山頂に今串池という小さな池がある。

時は天文(一五三二〜五五)の頃。大富山城(みやま)の息女がいた。西城中野の胎蔵寺の花見で、たまたま出逢った西城八鳥(はつとり)の住人東左近という二〇歳ばかりの若侍に一目惚れして、それがきっかけでふたりは恋に落ちてしまった。

一方で、姫には三河内(比和町)への縁談が進み、嫁入りすることになった。

嫁入りしても左近のことが忘れられない姫は、夜陰に紛れて西城に帰ってしまい、うつ病にかかった。

西城では手を尽くしたがいがある、少し落ちつきを取りもどし、三河内へ帰ることになった。その帰途、今串池にまつる弁財天に参りたいという姫の強い願いから、そこに立ち寄ることになった。そこで姫はお付きの者の隙をみて池に身を投げてしまった。

驚いた乳母(うは)が、今一度お姿をと泣きながら祈ったところ、暗雲と雷鳴のなか大浪がたち、大蛇となって池に姿を現わした。

以後、早魘(かんぱつ)の時には弁財天に参り、踊り(こきりこ踊りか)をして雨乞(あまご)いをすれば、お堂から小蛇が出てたちまち雨を降らすという。

今、池には水分神をまつる祠(ほこら)が建っており、雨乞いの神としてまつられている。

(郷土出版社「図説備北・安芸吉田の歴史」より)



今串池(西城町大屋)

今櫛山の山頂にある幅20m、奥行き10mほどの小さな池。池の中に石垣を積んだ島があり、今櫛神社の祠がある。水が切れたことはないと言えられるが、今は水がない。



今櫛山(西城町大屋)

西城町大屋と比和町三河内の境にある。急な坂を登ること1時間30分で山頂に達する。標高946m。

脳トレ まちがいがし

右の絵は左の絵とちがうところが全部で9個あります。見つけたら○で囲んでください。



編集後記

◆丑は十二支の一つ。西暦を12で割って5余る年が「丑年」です。古文書などでは、「元号を十千十二支年号に倣えば今年(令和3年辛丑)は古(とうし)の干支。丑(牛)は古くから農業で人間を助けてくれる大切な動物で、作業を手伝ってくれる働きぶりからその年は、「我慢(耐える)」・「これから発展する前触れ(芽が出る)」というように、良いことの先触れになる年回りとされます。

◆新型コロナウイルスによって世界中が大きな困難に見舞われ、日本でもそれに加えて鳥インフルエンザなど直接目に見えない感染症で苦渋に陥った年でした。今年こそはウイルス禍も落ち着き、予定される東京五輪大会開催の記事もおどるなど、言わば「福いを転じて福と為す」明るいニュースが話題となることを期待しています。

◆今年も会員さんにとってよい良い年となるよう、「全集中」で祈ります。

◆「長寿会員祝賀会・新年互礼会」は、感染症予防のためやむなく中止となり、米寿喜寿該当者のご紹介のみの誌面となりました。ご理解をお願い致します。

剪定講習・こけ玉づくり講座を開催しました

事業の目的

労働力人口の減少により、人手不足分野や現役世代を支える分野での担い手不足が問題となる中、当分野での高齢者の就業を推進することは喫緊の課題です。

こうした高齢者に対してシルバー人材センターの活動を積極的に周知・広報するとともに、高齢者がシルバーに興味を持ち自信を持って就業できるよう必要な技能講習を行うことにより、シルバーの新規会員を増加させます。

また、現にシルバー会員であるが、新たな分野で活躍を希望している会員や実際の就業に踏み出せない会員に対して、技能講習を実施することにより、人手不足分野等での担い手不足の解消をめざします。

剪定講習会

(11月 9日～11月12日開催)

(11月16日～11月19日開催)



お正月のこけ玉づくり講座

(12月10日開催)

